Check がん検診のあれこれ

がん検診のメリット／デメリット

がん検診を受けることは、がんの早期発見や早期治療により、がんで死亡することを防ぐことに繋がります。
ただ、がん検診も**リスクは0ではありません**。
メリットだけでなくデメリットも把握したうえで、自分に必要な検査項目を選ぶことが大切です。

メリット

- **がんによる死亡を防ぐ**
- 早期発見により**治療が軽度**で済む
（身体的・心理的負担、経済的、時間的負担の軽減）
- 異常なし、と診断されることで安心につながる

デメリット

- **偽陰性**
…がんがあるのに、精密検査不要と判定されること
大きさが小さい場合1回では見つからないため、1～2年に1回検診を受けることが大切
- **偽陽性**
…がんがないのに、がんの疑いありと判定されること
精密検査で心身に負担がかかる
- **過剰診断**
…命に別条のないがんを検診で発見すること
発見したがんが本当に治療が必要か正確に識別することは難しく、治療が行われ、本来不要な治療により身体的、心理的、経済的負担がかかる
- **偶発症**
…検診や検査での合併症
内視鏡による出血や穿孔、バリウムの誤嚥や腸閉塞、放射線被ばくなど

国が推奨するがん検診

現在国は、**がん死亡を減らす効果が確実**で、**利益が不利益を上回る**と**科学的根拠が確立**された以下の検診・検査を推奨しています。

種類	検査項目	対象年齢
胃がん	胃部X線検査 または胃内視鏡検査	50歳以上
大腸がん	便潜血検査	40歳以上
肺がん	胸部X線検査 および喀痰細胞診※	40歳以上
乳がん	マンモグラフィ	40歳以上
子宮頸がん	子宮頸部細胞診	20歳以上
	HPV検査単独法	30歳以上

※喀痰細胞診は50歳以上で、喫煙指数（1日本数×年数）600以上が対象

症状があるときは病院へ

検診はあくまで「がんの疑いがあるかの選別」のみです。
症状がある場合は**適切な検査と診断、治療が必要**となるため、**はやめに病院を受診しましょう**。

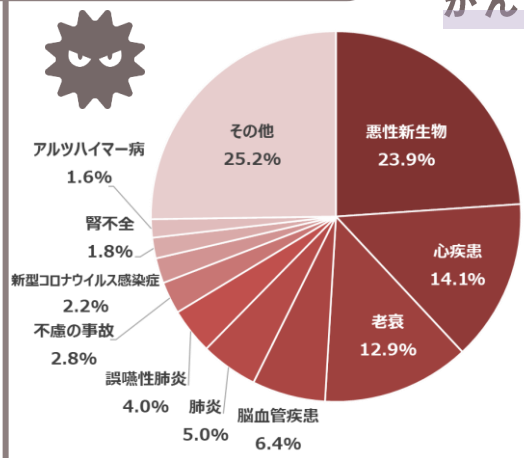
腫瘍マーカーだけではがんは見つからない

腫瘍マーカーは、がん診断後の経過観察や、治療の効果判定などで用いられます。
以下の理由で**早期発見には不向き**とされており、あくまで補助的な検査となります。

- **がん以外の疾患や加齢、妊娠、月経、飲酒、喫煙、薬の成分**などで、上がることがある
- 多くの腫瘍マーカーは**がんが進行しないと数値が上がらない**
- 腫瘍マーカーが上昇しても、どこにがんがあるかは特定できない

主な検査	対象の主な悪性腫瘍
CEA	大腸、肺、乳、甲状腺、食道、胃、胆道、膵臓、子宮頸部
CA19-9	膵臓、大腸、胆道、胃、大腸
SCC	子宮頸部、肺、食道
CYFRA	肺
CA125	卵巣、子宮頸部
PSA	前立腺

がんは死亡原因第一位



※厚生労働省　人口動態統計

検診で「**要精密検査**」となった場合は、必ず病院へ受診し、精密検査を受けましょう。

「経過観察」等の場合もどの頻度で、どのような検査を受ければいいのか相談することをおすすめします。

		1位	2位	3位	4位	5位
男性	罹患数	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
	死亡数	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	罹患数	乳房	大腸	肺	胃	子宮
	死亡数	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

※罹患数：2021年　国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）
死亡数：2023年　国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）

因幡電機産業健康保険組合